

# 適期収穫を実施しましょう【予測】

## ■積算温度で刈取り予測、籾水分・青籾割合で刈取り判断■

2021年産米も収穫期を迎え、ハナエチゼンでは既に収穫が始まっています。コシヒカリは9月上中旬、日本晴は9月下旬の収穫が予想されますので、穂の状態をこまめに観察し、適期収穫に努めましょう。品種ごとの成熟期は積算温度でおおよそ推測できますが、登熟期間中の気温により変動しますので、籾水分や穂の黄化率で時期を補正し、刈取り日を決定しましょう。



## ■収穫時期の目安

品種名	田植日	出穂期	出穂後の 目安日数	予想収穫 開始日
コシヒカリ(平坦地)	5月21日	8月 2日	37日間	9月 8日頃
コシヒカリ(山間地)	5月14日	8月 2日	41日間	9月12日頃
日本晴 (平坦地)	5月 8日	8月 9日	45日間	9月23日頃
日本晴 (山間地)	5月 1日	8月 6日	50日間	9月25日頃

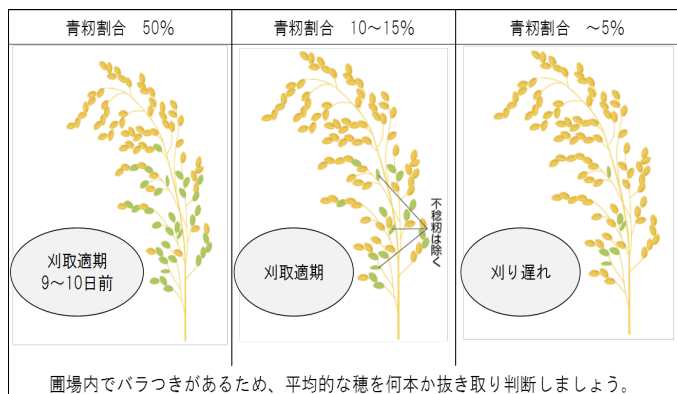
## ■籾水分測定による収穫開始の判断



収穫開始期の目安となる立毛中の籾水分は25%です。籾水分が30%以下になれば玄米水分計で計ることができ、籾水分は30%以上の場合1日あたり0.9%程度低下します。30%以下になり収穫が近づくと(出穂後24~27日頃以降)、1日あたり0.5~0.6%くらい減少します。刈り遅れると胴割粒が発生しやすくなりますので、収穫直前までの間断通水とあわせて適期刈取に努めましょう。

## ■1穂あたりの青籾割合による補正

籾水分だけで判断せず、穂の様子をこまめに観察し刈取り予想の補正を行いましょう。穂元に青籾が10~15%残った状態が刈取適期です。籾が全部黄色になる頃には、穂先の籾が刈遅れの状態になっていることが多いので、穂元に薄緑色の籾の割合が10%~15%(青籾割合が50%となってから約9~10日後)を下回ったら刈取りを始め、5%程度になるまでに刈り終えるように心がけましょう。



# 次年度に向けた土づくり

## ■健全な稲の生育は土づくりから■

管内の土壌は

1. 土壌のケイ酸分の減少
2. 腐食含有量の欠乏
3. pH の低下



土壌改良資材散布

など、地力の低下により生育後半に稲体が活力を落とし、米の品質・食味低下に繋がっています。水稻はケイ酸植物と言われ多量のケイ酸を吸収します。土づくり資材の無料散布などを活用して土づくりを積極的に実施しケイ酸の補給を行いましょよう。

## ■土づくり資材の無償散布～土づくりなくして品質・食味の向上なし～

ケイカル(砂) 500 kg/10a	資 材 代	13,530 円(税込)
	購入経費助成	▲3,003 円(税込)
	実質農家負担額	10,527 円(税込)
※自分で散布した場合、散布費用として別途 2,750 円(税込)支援します。		

しきぶホワイト 100 kg/10a	資 材 代	9,570 円(税込)
	購入経費助成	▲1,001 円(税込)
	実質農家負担額	8,569 円(税込)
※自分で散布した場合、散布費用として別途 1,650 円(税込)支援します。		

※ しきぶホワイト(粒状)は特裁認証①では使用できませんのでご注意ください。

■ 2022 年度春の無償散布受託は行いませんので、忘れずにお申込みください

## ■ケイフンは秋の稲わらと同時にすき込みしましょう

地力の乏しい地域では、ケイ酸質資材(ケイカル・しきぶホワイトなど)の施用にプラスして、腐植を高めるケイフン散布を行いましょよう。

- ◎ ケイフン・・・10a あたりの施用量 (目安)100 kg～150 kg(ライムソーワで散布)
- ケイフン(粉) 55円/15kg(予約引取税込価格)
  - ケイフン(ペレット)※動力散布機で散布可能 242円/15kg(予約引取税込価格)

※ ケイフンの無償散布は行っておりませんので、予めご了承下さい。